

広告事業局

広告事業局の事業グループは展示会、コンサート、家族で楽しめるイベントなどの催しを企画運営して収益を上げる業務をしています。

常に意識しているのは「売り上げ」です。県民や読者に貢献するイベントはもちろんですが、売り上げ向上が最重要課題です。稼げる企画というのはイベント自体の魅力はもちろんですが、紙面で魅力をいかに伝えることも重要です。ターゲットをどこに絞るか、設定した対象に届けるか、ということに知恵を使います。

コロナ禍ではほぼ何もできませんでしたが、一番シヨックだった

沖縄初の事業を狙って

のは2年近く準備した企画を中止せざるをえなくなったこと。労力が無駄になるし、目に見えて赤字になる。企画しても良かったですね。

仕事をして喜びを感じる瞬間は収益を上げた時です。いい催しだと思っているのに不振に終わると、伝え方が悪かったと反省します。予想以上に客入り良かった場合は魅力がダイレクトに伝わったと理解しますね。

イベントの誘致も重要な業務ですが「沖縄で初めて」を狙っています。

2016年に担当し誘致したプラネタリウム・メガスターも沖縄初でした。人気の講師、

広告グループ OKINAWA SDGs プロジェクト事務局



事業グループ

相談しやすい関係意識

新聞社の仕事と言えば記者を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、新聞をよく見てみると記事だけではなく、いろいろな企業の広告が多く掲載されています。この新聞紙面で広告のスペースを広告主に販売することが主な業務で、スポンサーの意向を聞きながら提案やアドバイスをしています。また、新聞社が主催するイベントやセミナーなどの事業運営、広告主の新しい商品やサービスの取材をして記事化もしています。

新聞広告業務で大切にしていることは、情報収集とコミュニケーションです。お客さまの事を知らなければ企画提案もでき

ないので広告主の情報は小まめにチェックするように心がけています。広告主の情報は、直接訪問することもあれば、広告出稿をサポートする広告代理店さんから収集することもあります。いざにせよ、相談先としてパツと私を思い出しもらえるように、日頃からコミュニケーションを取るように意識しています。

最近では、さまざまなメディアが出現しているので、その中で新聞広告の価値を高めて選んでもらえるようにイベントやWeb広告をセットにして提案する必要が高まっています。そういった意味では、事業運営で必要な、実施までのスケジュール



名嘉真 智美

なかま さとみ
2017年入社

所属部署

広告事業局広告グループ
OKINAWA SDGs プロジェクト事務局

好きな時間

温泉、焼肉、ワークアウト、ヨガ

私は30歳を過ぎて中途入社しました。これまでの仕事では金融業やWeb関係など専門的な人々との関わりしかありませんでした。新聞社は、ある一つの業界だけではなく、政治や経済、文化などさまざまな分野の人と出会えることが一番の魅力かなと感じています。

就活生へのアドバイス

ル管理や予算管理、Webマーケティングのスキルなど求められる事もどんどん増えています。広告主の意向に沿えるように適切な準備をしなくてはならないのでスキルアップの意識も大切ですね。

就活生へのアドバイス

それほど心配しなくても社会に飛び込めば周囲は助けてくれます。壁はあっても楽しんで乗り越えればいいと思うし、考えすぎなくていい。日々の業務の中で2、3日悩んでいたのを意を決して電話なり何なり行動に

神田伯山さん（当時は神田松之丞さん）も最初に沖縄に招きました。中部支社の広告担当だった時は酒場詩人・吉田類さんの講演会も開きました。

今後はコロナが収束しイベントを多く開催できればうれしい。Web上のイベントもあります。が、やっぱりリアルに勝るものはないと思います。



大城 陽

おおしろ よう
2003年入社

所属部署

広告事業局事業グループ

趣味・特技

友達とサッカーやフットサルをすること

平日はフル回転なので休日は予定を詰め込まないようになっています。週末は温泉に必ず行きますね。コロナ禍で落ち着けば、強酸性泉の温泉地巡り（旅行）がしたいです！

プライベート

広告グループに求められる人材は、広告主や広告代理店、各関係者のスケジュールに合わせてコンタクトをとってのやり取りが多い部署なのでフットワークの軽さと協調性が重要です。また、新規開拓のためのテレポや訪問などを行う場合もあるので、行動力のある人は向いているかもしれません。

プライベート

休日は子供たちと両親とで遠出します。冬場は山にも登ります。リンゴの皮をむくのも好きです。不格好にしかむけないので特技ではないですが、夕食後などに家族が食べる時や子どもに弁当にリンゴが入る時、「俺がむく」と手を上げますね。

移したら簡単に解決して、「何でこんなに悩んでいたんだろう」と思うことがよくあります。

一緒に働くなら素直な人がいいですね。指示を素直に聞くのも大切ですが、おかしいものはおかしいと、素直に意見を伝えることができる人を求めたいですね。

地域と共に ③

新報 アートルネッサンス

新型コロナウイルスの感染拡大で、公演や展示会の中止を余儀なくされ、大きな影響を受けた芸能や美術。沖縄の芸能文化活動を支援しようと、琉球新報社が展開したのが「新報アートルネッサンス新歩の時」です。

コロナ禍で舞台公演や展示会を中止・延期せざるを得なかった実演家やアーティストを対象に、那覇市泉崎にある琉球新報社の3階ホール、2階ギャラリー、1階公開空地「あじま〜る」の施設料を減免して貸し出しました。

主な開催期間は2021年2〜7月。出演者やスタッフの公演前一週間の健康観察、来場者の検温や消毒など感染防止対策をしっかりとした上で展開しました。企画は県内で活躍するアーティストや団体・組織に歓迎され、多くの展示会や演奏会が繰り広げられました。

芸術の歩みを止めない。



20年に公募し応募があったうち、27事業が行われました。新報ホールでは琉球芸能からミュージカルまで幅広いジャンルの公演を実施。ギャラリーでも書やイラスト、織物の展示会やミニコンサートが行われました。「あじま〜る」では、レッドカーペットを敷いてのファッションショーなど多彩な催しを繰り広げました。「アートルネッサンス」で公演したアーティストからは「企画を知り、背中を押された気持ちになった」「コロナ禍の中、無事開催できたことは大変うれしい」など喜びや感謝の声が上がりました。

